

6月4日から10日まで「歯と口の健康週間」

オンライン対談

生きる力支える 口腔ケア



オンラインで古屋圭司衆院議員と対談する阿部義和県歯科医師会会長

6月4日から10日までは、日本歯科医師会と厚生労働省などが提唱する「歯と口の健康週間」。本年度は「生きる力を支える歯科口腔保健の推進」を重点目標に、歯や口腔の健康が全身の健康につながることを広く呼び掛ける。県歯科医師会の阿部義和会長と、「国民皆歯科健診」を実現するための議員勉強会を立ち上げた古屋圭司衆院議員が、定期的な歯科健診の重要性や新型コロナウイルスに対する感染対策についてオンライン対談した。

(司会・国本真志登岐阜新聞編集局長)

「歯と口の健康週間が始まりました。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、人々の健康への観点からさまざまな影響があったと思います。緊急事態宣言は解除されましたが、県歯科医師会ではどのような感染対策を取られていますか。」

阿部 ます、感染防止対策ですが、「3密」を防ぐために歯科医院では、小まめな換気、待合室(過)す時間短縮するための予約調整、診療台の距離を離すといった対策を取っていました。また、診療前に検温と体調の確認を行い、抗ウイルス薬でうがいをするといった対策も講じていることです。新型コロナウイルスの影響については、国の緊急事態宣言や外出自粛が要請されたこともあり、歯科医院への受診を控える傾向にあったといえます。コロナ禍とはいえ、歯や口腔内の疾患を放置すると、重大な病気を招くこともあり、患者が自分の考えで診

療を自願してしまつては注意が必要ですね。かかりつけ歯科医と相談した上で、診療を受けてほしいと思います。歯科診療では密な感染防止対策が行われていることが分かりました。私もコロナ禍で通院していない議員会館の歯科医院に行けるのを自願していましたが、近々行くと思っています。新型コロナウイルスに関しては、5月14日に緊急事態宣言が岐阜県でも解除されましたが、今後も長期感染を懸念しなければなりません。引き続き、対策を徹底し続けます。

阿部 はい、今後も標準的な感染対策に加えて、適切な対策を追加していきたいと思っています。また、コロナ禍で注目されたPCR検査や唾液が使われたことになりました。口腔内のウイルス量も非常に多いです。インフルエンザは口内の健康に留意することで罹患率は減少すると言われています。口腔内の細菌が多い

定期的な受診が大切



阿部義和・県歯科医師会会長

あべ・よしかず 愛知学院大歯学部卒。1978年、恵那市明智町で阿部歯科医院を開業。県歯科医師会では副会長兼専務理事などを歴任し、2013年6月から会長。71歳。

「今年の重点目標は「生きる力支える歯科口腔保健の推進」を生体とした8020運動の新たな展開です。阿部 歯科疾患の予防や歯と口の健康を推進することが、国民の健康につながるという意味から、重点目標に位置づけられました。口腔疾患が長く放置されると全身の健康に影響を与えます。歯科の健康は一般の人が思っている以上に

「歯の健康が重視される中、国会では「国民皆歯科健診」の実現に向けた議員勉強会が立ち上がっています。古屋 はい、昨年末に健やかな人生100年時代に向けた議員勉強会を立ち上げた。国は2017年度から3年連続で骨太の方針の中で、歯科口腔の健康が全身の健康につながることを明記しました。また、19年度の骨太の方針の中間報告の中では、重症の歯周病を放置すると糖尿病を発症する可能性がある指摘があり、生涯を通じた歯科健診の充実の必要性が述べられ、歯科健診の受診の拡大が記されました。これは非常に意義深いことです。現役0歳から高校生までは歯科健診の法的義務がありますが、その後は任意で、定期的な受診の機会がありません。生涯を通じて健康を維持することは、健康につながるだけでなく、重要なことです。そして、この結果的に医療費の抑制につながります。一人一人の健康寿命を伸ばす意味でも、定期的な歯科健診は有効だと考えます。

「国民皆健診」を推進

古屋圭司・衆院議員



ふるや・けいじ 成蹊大経済学部卒。1990年に衆院議員に初当選し、当選10回。国家公安委員長、自民党選挙対策委員長、衆院議院運営委員長などを歴任。67歳。

と、肺炎が重症化しやすいことが分かっています。例えば、歯周病を放置すると、肺炎、糖尿病、認知症、肥満、糖尿病、狭心症、心筋梗塞、糖尿病、関節リウマチ、骨粗しょう症、動脈硬化、早期低体重児出産など、全身に関わる疾病につながることも分かっています。歯科治療は健康な生活を送る上で不可欠な医療だといえるに誇りを持ち、その必要性を国民に伝えていきたいと思っています。新型コロナウイルスの収束をみなさんが影響を与えます。歯科の健康は一般の人が思っている以上に

古屋 重点目標にある「8020運動」ですが、私は私生活を通じて健診は、全身の健康につながるだけでなく、重要なことです。そして、この結果的に医療費の抑制につながります。一人一人の健康寿命を伸ばす意味でも、定期的な歯科健診は有効だと考えます。

「歯科健診の重要性について認識が深まりました。本日はありがとうございました。」

「歯の健康が重視される中、国会では「国民皆歯科健診」の実現に向けた議員勉強会が立ち上がっています。古屋 はい、昨年末に健やかな人生100年時代に向けた議員勉強会を立ち上げた。国は2017年度から3年連続で骨太の方針の中で、歯科口腔の健康が全身の健康につながることを明記しました。また、19年度の骨太の方針の中間報告の中では、重症の歯周病を放置すると糖尿病を発症する可能性がある指摘があり、生涯を通じた歯科健診の充実の必要性が述べられ、歯科健診の受診の拡大が記されました。これは非常に意義深いことです。現役0歳から高校生までは歯科健診の法的義務がありますが、その後は任意で、定期的な受診の機会がありません。生涯を通じて健康を維持することは、健康につながるだけでなく、重要なことです。そして、この結果的に医療費の抑制につながります。一人一人の健康寿命を伸ばす意味でも、定期的な歯科健診は有効だと考えます。」